

第3学年
「A表現」(1)歌唱
学習指導案

【題材名】

混声合唱の豊かな響きを生かし、自分たちの思いを伝えよう

【教材】「遠い空の下で」 作詞:宮本益光 作曲:加藤昌則

内容のまとめ

〔第2学年及び第3学年〕「A 表現」(1)歌唱 及び〔共通事項〕(1)

愛媛大学教育学部附属中学校 三棟 優子

1 題材の目標

楽曲の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、楽曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して、全体の響きや他の声部を聴きながら歌い、混声合唱に親しむ。

2 題材について

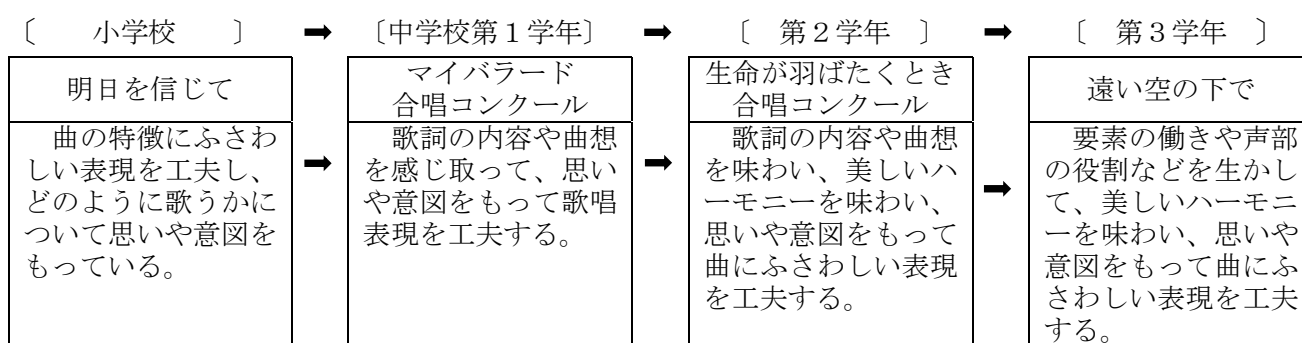
(1) 生徒の実態

本学級の生徒（32名）は、これまでの歌唱の学習の中で、ブレストレーニングや声を出しやすくするための身体や筋肉の使い方、豊かな響きを生み出すための軟口蓋の開け方などの発声方法を学んでいる。また、聴き手に歌詞をしっかりと伝えるための方法として、語頭の母音や子音の発音の仕方も学んでいる。今まで学習してきた共通教材では、楽譜上の用語や音楽記号の配置の意図、作曲者の意図を自分なりに解釈する学習を行ってきた。そのため、楽譜上の用語や音楽記号を基に表現を工夫しようとしたり、それによって生まれた楽曲の雰囲気の変化を感じ取ったりすることができる生徒が多い。しかし、この3年間はコロナ禍において、感染対策を重視しながら、限られた授業時数で合唱を仕上げる必要があった。そのため、合唱曲の歌詞から感じ取ったそれぞれの思いやイメージを基に、全体の響きや各声部の声を聴きながら他者と合わせて歌い、自分たちで曲にふさわしい表現を工夫する経験は乏しいのが実態である。

(2) 題材について

本題材で取り扱う合唱曲「遠い空の下で」は、愛媛県出身の音楽家、宮本益光氏が作詞した作品である。同声二部合唱曲として作られ、広く歌われているこの曲を、作曲家の加藤昌則氏に依頼して、混声四部合唱に編曲していただいた。この混声四部合唱曲は、1番から3番までの曲の構成が異なるため、四つのパートの音や旋律の組合せ方によるテクスチャを感じ取って、創意工夫に結びつける力を養うことができる教材だと言える。どうすれば「歌声」に乗せて、混声四部合唱の豊かな響きを聴き手に伝えられるかを生徒とともに考えていきたい。そして、将来それぞれの道に進む生徒たちに、ここで学んだ「遠い空の下で」を自分たちの歌として生涯歌い続けてほしいと願っている。

〈題材の関連と発展〉



〈音楽科と他教科等とのつながり〉

教科等	学年	学習内容
国語	全学年	文学作品（詩）の読み
理科	1年	音の性質
特別活動	全学年	言語技術活動（問答ゲーム）

(3) 指導について～研究の視点との関連

(ア) 音や音楽との出会いや学習課題の設定の仕方についての研究

生徒が自ら課題を見付け、目標達成に向けて主体的に合唱に取り組めるように、題材の導入時には二つの手立てを講じる。一つ目は、音や音楽との出会わせ方の工夫である。導入時に、作詞者本人が本校講堂で独唱した動画や本校コーラス部が歌唱した動画を鑑賞することで、楽曲を特別に、そして身近な存在に感じ、「自分たちにしかできない合唱がしたい」という思いを生徒たちにもたせたい。二つ目は、学習課題の設定を生徒に委ねることである。音や音楽との出会い、歌詞との出会いを踏まえ、「どのような合唱に仕上げたいか」「目指す合唱を実現するために解決すべき課題は何か」「そのためには、どのような練習が必要か」を考えさせることで、主体的に課題の解決に向けて取り組めるようにしたい。

(イ) 音や音楽で交流し、感じ、考える学習活動の研究

自分たちが目指す豊かな合唱の実現に向けて、歌詞の解釈を行う場面や演奏の聴き合いを行う場面において、他教科の学習を効果的に取り入れた学習活動を展開する。国語科の授業では、歌詞の内容や表現の工夫とその効果について解釈する。音楽科の授業では、生徒が自身の読解による学びを歌唱表現に生かせるようにする。また、演奏を聴き合い、自分たちが考えたことを伝え合う場面では、本校が取り組んでいる言語技術活動を通して身に付けた、「自分の考えを論理的に伝える話し方」や「相手の話の本質を探ろうとする聴き方」を駆使し、話合いの質の向上を目指す。パート練習やグループ学習など学習形態を変えながら話合いを繰り返し行い、客観的に演奏を聴き合い、それぞれのよさを伝え合うことで、生徒自身が話合いや練習の成果を実感しながら合唱に取り組めるようにしたい。

(ウ) 題材構成と学習の振り返り、評価の計画についての研究

生徒が学び合う授業を行うために、音楽について他者と意見を交換したり、議論したりする場面を設定し、「このように表現したい」という生徒の思いを基にして題材構成を行う。また、合唱の授業を通して自分の成長を自覚することができるように、「遠い空の下で」の印象が、導入時と終末時ではどのように変化したのか振り返る活動を取り入れる。そして、自分の考えや互いの気付きを生徒同士で交流したり、共有し、共感したりする協働的な学習活動を軸として、生徒一人一人に自分にとっての「遠い空の下で」を見付けさせる。

学習の振り返りについては、生徒が記述した内容について、生成 AI (ChatGPT) を利用して授業者がコメント返す機能を取り入れ、生徒が客観的に学びを見つめ直すきっかけとなるように研究を進めていきたい。教師は生徒の変容を見取り、次時の授業における展開のコーディネートを検討するなど、生徒の実態に合った授業に向け改善を図りたい。

3 本題材で取り扱う学習指導要領の内容(内容のまとめ)

第2学年及び第3学年 A表現(1)歌唱

ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。

イ(ア)曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。

ウ(イ)創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けること。

[共通事項]

(1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。

イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。

(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素)

「テクスチュア」「構成」

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 「遠い空の下で」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 技 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けて歌唱で表している。	思 「遠い空の下で」のテクスチュアや構成を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「遠い空の下で」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	態 「遠い空の下で」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画(全8時間)

□は全員の学習状況を記録に残す場面

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
		〈 〉 内は評価方法		
1	◆楽曲に込められた作詞者・作曲者の思いを知り、音楽の構成を理解する。 ○ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容と関わりについて理解する。 ・ 附属中学校のために、同声二部合唱曲を混声四部合唱曲に編曲された経緯や作者の思いを知る。 ・ 範唱を聴き、歌詞の内容と、旋律や曲想との関わりを感じ取る。 ・ 「遠い空の下で」の第一印象やどのような合唱に仕上げたいかなどをデジタルポートフォリオに記入する。			
2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 (本時)	◆どのように歌うかについて思いや意図をもち、楽曲にふさわしい表現になるように工夫する。 ○ 「遠い空の下で」の各声部の音程を確認し、他のパートと合わせて歌う技能を身に付ける。 ・ 音取りを通して、曲の構成や声部の役割について考えながら歌う。 ・ 自分のパートの役割を確認し、音色をそろえて歌えるようにする。 ・ 複数のパートで歌い合わせ、ハーモニーの響きの中で音程を捉えて歌う。 ○ 「遠い空の下で」の構成や声部の役割を理解し、歌唱表現を創意工夫する。 ・ テクスチャや声部のバランスを考えながらハーモニーを確認する。 ・ グループ活動を通して、一人一人が意見を出し合いながら、表現の工夫を考える。 ・ 音楽を形づくっている要素と曲想との関わりを考え、様々な歌い方を試しながら学級全体で表現を創意工夫する。	知 〈観察・記述〉	思 〈発言・記述〉	
7 ・ 8	◆思いや意図に合った表現をするために、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。 ○ 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。 ・ 全体の構成を考えながら、創意工夫した表現を聴き手に伝えられるよう合唱練習をする。 ・ 曲の仕上げをする。 ○ 学習を通して学んだことや、「遠い空の下で」の魅力をポートフォリオに記入し、本題材のまとめをする。	技 〈観察・演奏聴取〉		態 〈記述・演奏聴取〉

6 本時の指導(6/8)

(1) ねらい

歌詞のイメージと曲の構成、声部の役割を生かし、思いや意図をもって楽曲にふさわしい表現を工夫する。

(2) 展開

○ 学習内容 ・ 学習活動	○ 指導の工夫 ■ 評価規準(評価方法)
ボイストレーニングをする。	○ 主体的な活動とするために、ボイストレーニングを生徒がリーダーとなり行う。
混声四部合唱の豊かな響きを生かし、自分たちの思いを伝えよう	
「遠い空の下で」を通して歌う。 ○ 「遠い空の下で」の「構成」と「テクスチャ」を知覚・感受し、歌詞のイメージと曲の構成、声部の役割を生かし、曲にふさわしい音楽表現を追求する。 - 前時の振り返りを基に、本時の工夫したい箇所を確認する。 - 二つのグループに分かれて表現を工夫する。	○ ロイロノートに楽譜を提示し、共有ノートを使って意見を集約することで、互いに意見を視覚的に理解できるようにする。 ○ 生徒たちが目指す合唱表現に迫るために、前時の振り返りで出た課題を選択させ、本時の活動の見通しを持たせる。 ○ 表したい表現となっているかを確認するために、歌い試したり、自分たちの演奏を聴き返したりするよう促す。 ○ 不安定な音程が生じた場合は、それを解消するために、発声方法を指導したり、ピアノで示す和音に音程を合わせるよう助言したりする。 ■ 「遠い空の下で」のテクスチャや構成を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「遠い空の下で」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。 思 (観察・記述) ○ 次時の課題につながるように、生成 AI を活用した振り返りをさせる。
○ お互いのグループの工夫した表現を聴き合い、意見交換する。 - グループ毎に工夫した歌い方を発表する。 - 今日の成果を録音し、本時の学習を振り返る。	

7 本時の評価場面での生徒の具体的な姿と働きかけ

【思考・判断・表現】

十分満足できる(A)と判断する姿
- 知覚したこととしてテクスチャと構成に関する記述があり、かつ、感受したこととの関わりについて考え、その内容が詳細に書かれている。 - テクスチャと構成だけでなく、他の要素についても聴き取って、考えを深めている。 - 音楽に聴き入り、他者の意見も参考にしながら考え、よりよい表現にするために工夫しようとしている。
努力を要する状況(C)と判断されそうな生徒への働きかけ
生徒と共に歌いながら、「遠い空の下で」から感じ取った雰囲気にふさわしい表現について対話し、思いや意図がもてるよう促す。

